

## 被服のための身体計測に関する研究 (第5報)

—市販ブラウスの型紙寸法と実測値との関係—

清水 房\* 池田 揚子\* 鈴木 由美子\*

(1976年7月10日受理)

### まえがき

我々は昭和42年度に「被服のための身体計測に関する研究」という主題のもとに岩手県内3地域(中都市, 平地農村, 山村)の中学校女子生徒, 各学年100を目標に25項目にわたる身体計測を実施し, 本学部研究年報に報告した地域類型別比較<sup>1)</sup>と学年進行に伴う体型変化<sup>2)</sup>と初潮からの経過年数による変化<sup>3)</sup>の追跡研究を報告している。昭和47年度には, 前回と全く同じ中学校の女子生徒を対象に同様の計測調査を行ない, 5年を経過した時点で部位ごとの比較をし, 体型変化の様相を明らかにしようとした研究を同研究年報に報告<sup>4)</sup>している。

これら一連の研究はいずれも地域の実態に即した教育課題解決に応えようとして行なってきたもので, 今回はこれまでの研究を足場にして, 現在岩手県内の中学校で被服製作学習に活用している市販型紙(ブラウス)に対する検討を行ない2・3の考察をこころみたので報告する。

### I 資料

既に本学部研究年報第28巻(1968)から第30巻(1970), および第35巻(1975)に掲載済みの研究成果と, 市販され活用されている各社の型紙。

### II 研究方法

1. 県内各地区の中学校100校を無作為抽出し, ブラウスの型紙についてつぎのことを調査する。

- (1) 市販型紙の採用状況と型紙教育の普及度を知る。
- (2) どこの出版社のものが比較的多く採用されているかによって, 解析対象をしぼる。

\* 岩手大学教育学部

- |                                               |                        |
|-----------------------------------------------|------------------------|
| 1) 被服のための身体計測に関する研究(第1報)<br>—岩手県の3中学校女子の計測結果— | 清水・池田・荒井 '68 vol 28の3  |
| 2) 全 上 (第2報)<br>—学年進行に伴う体型の変化—                | 清水・池田・小笠原 '69 vol 29の3 |
| 3) 全 上 (第3報)<br>—初潮からの経過年数による体型の比較—           | 清水・池田・小笠原 '70 vol 30の3 |
| 4) 全 上 (第4報)<br>—昭和47年値と42年値との比較—             | 清水・池田・菅原 '75 vol 35の3  |

(3) 型紙寸法の補正箇所を調査し、多い部位を取り上げて検討する。

(4) 仮縫補正箇所を調査し、型紙寸法に帰納させて検討を加える。

2. 調査結果にもとづき、つぎのことを検討する。

(1) 比較的多く採用されている型紙出版社数社を選んで、市販型紙の比較をする。

(2) 補正箇所の多い部位を対象に、市販型紙寸法と、我々が昭和42年と47年に実施した岩手県内3中学校の身体計測結果との関係を学年ごとに考察する。

なお、今回地域別に検討を加えない理由は5年間隔に行なった2度の計測結果から、地域類型による差は縮少する傾向にある<sup>4)</sup>ことが判明したことによる。

### III 結果および考察

#### 1. 調査結果

(1) 回収率；100通中56通で、56.0%という低率であった。無回答の約40校は、ブラウスを教材に取り入れて居ないか、小規模校の為専任教師が不在か、専任教師が居ても忘れて回答しなかったか等の理由によるものと考えられる。56校の管内ごとの内訳数はつぎのとおりである。盛岡—8, 岩手紫波—14, 稗貫—4, 和賀—4, 胆江—3, 西磐井—4, 東磐井—1, 気仙—4, 上閉伊—5, 下閉伊—5, 九戸—1, 二戸—3。

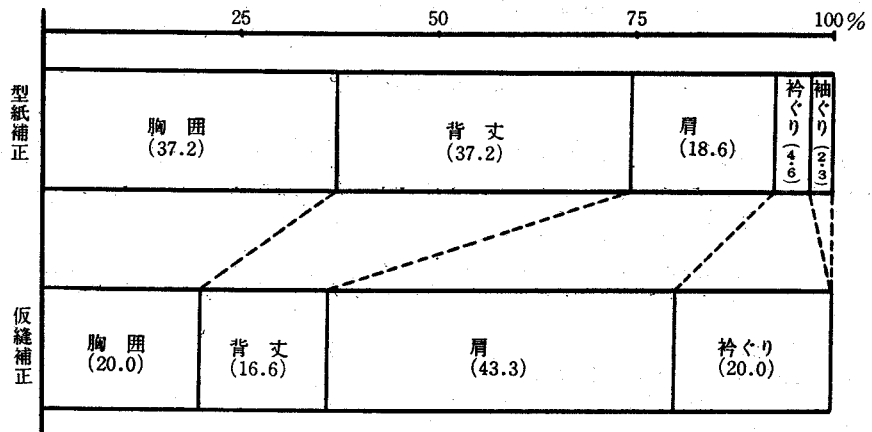
(2) 型紙使用状況；使用している学校が56校中47校で83.9%, 使用していない学校は2校(3.6%), その他7校(12.5%)はブラウス製作をしていないという回答であった。

(3) 採用している型紙の出版社；8社に及んでいて、最も多いK社のものを使用している学校数は18校で35.3%, つぎがS社の10校で19.6%, 3位がM社の9校で17.6%, 4位がB社で6校の11.7%である。以上4社で全体の8割を占めている。

(4) 型紙補正箇所；胸囲が多いと答えた校数が16校で37.2%, 背丈も同様16校で37.2%, つぎ

が肩で8校18.6%, その他衿ぐり, 袖ぐり等となっている。以上の結果から今回は胸囲と背丈の寸法を検討の対象とする。

(第1図) 補正箇所の調査結果 (県内56校)



(5) 仮縫い補正箇所；仮縫い段階での補正箇所としては肩が圧倒的に多く43.3%, ついで胸囲と衿ぐりが、それぞれ同数の20%である。このことについては肩傾斜の計測を必要とするの

で今後の研究課題としたい。

(6) その他の意見; サイズについての意見が, 16校から寄せられている。その主なものは肥満体用としての特大寸法(胸囲88cm以上)の要求が, 数校から出されている。また反対に極小の要求が2校ある。背丈を長くという要求は3校から出ている。胸囲不足が6校あり, 本県の体型の特徴を裏付ける意見として今後検討を要する部位である。その他首まわり, 腕まわりを大きくという要求が, 特に農村部の学校から出ている。以上が衣服寸法に関する意見であり, それ以外のことでは, 補正線のそう入を希望するものやデザインに関する要望等がある。価格が高いというのが13校から出ていることも今後考えなければならない問題である。

2. 市販型紙の比較

調査の結果から比較的採用数の多い4つの出版社(前掲のK社, S社, M社, B社)の型紙を取り上げ, 型紙寸法の上で補正の多かった部位, すなわち胸囲と背丈, およびブラウスの型紙寸

第1表-(1) 採用の多い4社の型紙寸法一覧

部位	会社区分 サイズ区分	K	S	M	B		
					(A)	(B)	
胸 囲	特大	—	—	94(106)	89	95	
	大	86 (96)	86 (97)	86 (98)	85	91	
	中	A(中大*)	82 (92)	82 (93)	82 (94)	81*	87*
		B(中*)	78 (88)	78 (89)	78 (90)	77*	83*
		C(小*)	74 (84)	74 (85)	74 (86)	73*	79*
小	70 (80)	70 (81)	70 (82)	69	75		
	平均	78 (88)	78 (89)	80.7 (92.7)	79	85	
背 丈	特大	—	—	38	—	—	
	大	38	38	38	38.5	39.5	
	中	A(中大*)	37	37	37	37.0*	38.0*
		B(中*)	36	36	36	35.5*	36.5*
		C(小*)	35	35	35	34.0*	35.0*
小	34	34	34	—	—		
	平均	36	36	36.3	36.3	37.3	
ブ ラ ウ ス 丈	特大	—	—	56	—	—	
	大	56	55	56	54.5	57.0	
	中	A(中大*)	55	54	55	53.0*	55.5*
		B(中*)	54	53	54	51.5*	54.0*
		C(小*)	53	52	53	50.0*	52.5*
小	52	51	52	—	—		
	平均	54	53	54.3	52.3	54.8	

註) 1) B社の(A)はティーンサイズAの略で中学校向  
 (B)はティーンサイズBの略で高等学校向につくられたもの。  
 2) ( )内数字はゆりみを加えた寸法。  
 3) \*印はB社のサイズ区分による。

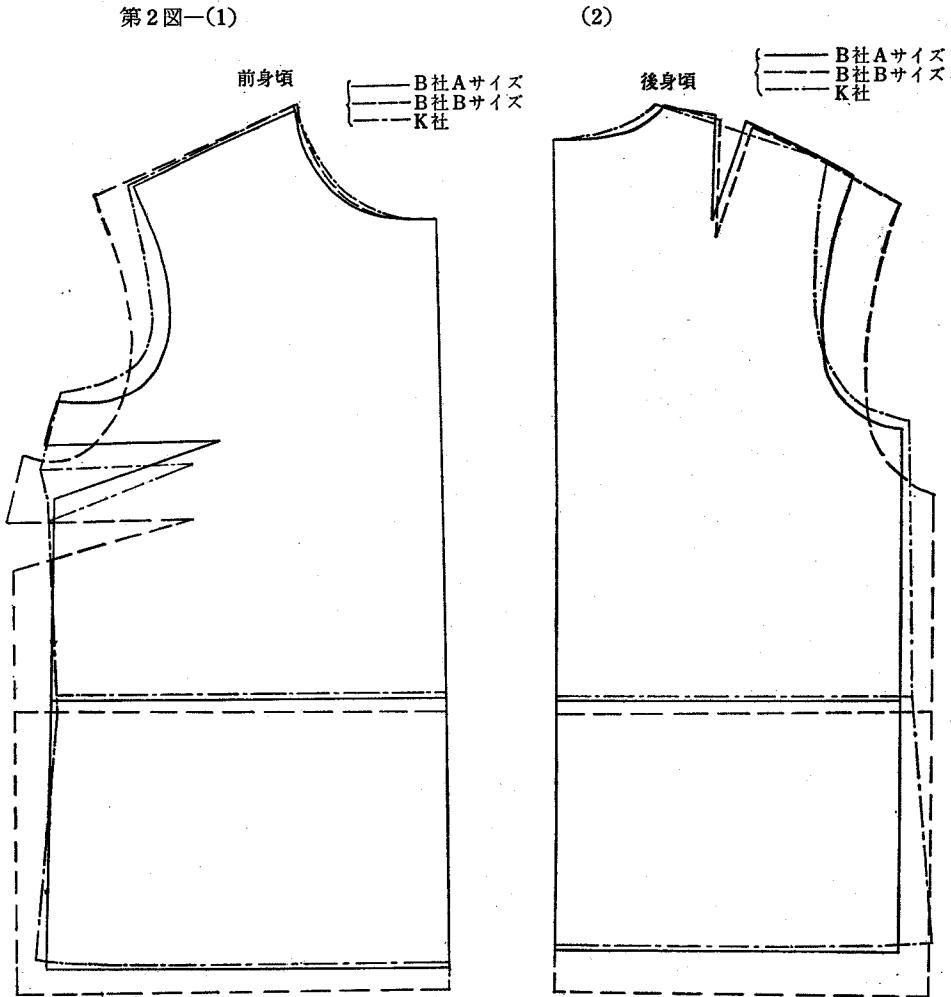
法を一覧表にまとめ比較資料とする。

これによると, B社を除くK・S・Mの3社は胸囲と背丈の寸法区分がほぼ一致している。ただM社は「特大」寸法区分を設けていて最近多くなっている肥満傾向の生徒に対する配慮がなされている。B社の場合は, 表中に註記したようにティーンサイズAとティーンサイズBという2種類の寸法区分の型紙を出していて, これ等を合わせて考えると他の3社より寸法の最小値と最大値間の中が大きく, しかもその間における寸法区分が細かくできている。即ち, 胸囲についてみると最小69cm(岩手の実測

値最小は昭和47年値の62.9cm) から最大値95cm(岩手の実測値最大は昭和47年値で97.3cm)まで27cmの開きがあり, 73cmから91cmまでの間は, 2cm間隔(他の3社は4cm間隔)にできている。この

点からB社の型紙は(A)と(B)二種を合わせて使用すれば、他社にくらべ胸囲補正が少なく済むよう配慮されている。

つぎに、更に細部に亘って比較検討するために、余り差のない3社のうちから最も使用校数の多いK社をとり、特色のあるB社の(A)と(B)を前中心線を合わせて重ね作図したのが第2図一(1)と(2)である。



図によってわかるように、各カーブの画き方(衿ぐり、袖ぐり、脇線等)や、肩下がり線の角度といせ込みのとり方、ウエストの位置等に相異が認められる。また型紙の上でカーブ線の上にメジャーを立てて測った寸法(5回の平均値)を第1表一(2)に示した。

これによると、衿ぐりの $\frac{1}{2}$ の寸法は17.3cmから18.4cm、肩巾(首つけ根から肩先き点まで)は、11.4cmから12.5cmとそれぞれの部位で約1cmの開きがみとめられる。袖ぐりは36.2cmから40.3cm(袖をつけない場合)、38.2cmから40.2cm(袖をつける場合で2社のみ)と、2~4cmの開きとなっている。ダーツ分量は少ないところで2.6cm、多いのは3.3cmでその差は0.7cmである。

第1表一(2) 型紙の上で計った寸法比較

(サイズは中のBによる)

単位: cm

部位	会社区分	K	S	M	B	
					(A)	(B)
衿ぐり/2	前後	10.4	11.2	10.7	10.7	10.5
	前後	6.9	7.2	6.8	7.0	7.2
肩 巾	前後	11.4	12.5	11.5	11.0	13.8
	前後	11.4	13.2	12.0		
袖ぐり(袖無)	前後	17.0	19.1	20.0	36.2	—
	前後	19.2	18.3	20.3		
袖ぐり(袖つき)	前後	19.4	—	19.0	—	21.2
	前後	20.8		19.2		20.4
ダ ー ツ	分量	3.3	2.7	2.6	3.3	3.0
	長さ	9.5	8.8	9.0	11.0	12.0

以上の比較によって各部位寸法に相当の幅があることが判明した。そのほか肩巾寸法の前後に差をつけないのがK社である。このことについては中学生が初めて製作するブラウス教材への配慮かとも思われるが、体型の観察から入って肩甲骨の峰のカーブにそわせるための技法として、後の肩ダーツや、いせ込み分量を必要とする意味を理解させることは、中学1年生にとってそれ程難度が高いとも思われないし、このことを取り上げて指導することによる教育的効果を認めたい。

を認めたい。

以上、代表的4社の型紙を寸法の上から比較してみると、学校単位で〇〇社の型紙をと限定して取り入れることに問題があると思う。今後は生徒個々に自分の体型を把握させ、その上に乗ってどこの出版社の型紙が最も自分に合うかを判断し選定する力を養うような指導が必要であると思う。

### 3. 胸囲と背丈の相関分布と型紙寸法

我々が計測した項目の中から今回の調査で型紙の補正箇所として最も多かった胸囲と背丈の実測値をとり、市販ブラウスの型紙寸法区分(胸囲は4cm間隔、背丈は1cm間隔)に従って学年ごとに相関分布表で表わしたのが第2表の(1)から(3)までである。

第2表一(1) 乳頭位胸囲と背丈の相関表 (1年 42年/47年)

背 丈 (cm)	乳頭位胸囲(cm)										計
	60.1 64.0	64.1 68.0	68.1 72.0	72.1 76.0	76.1 80.0	80.1 84.0	84.1 88.0	88.1 92.0	92.1 96.0	96.1 100.0	
29.1~30.0	2/0										2/0
30.1~31.0	0/1	0/1	1/1								1/3
31.1~32.0		0/2	6/2	2/1							8/5
32.1~33.0		2/3	2/4	1/1	2/0	2/0	1/0				10/8
33.1~34.0		4/2	11/3	6/4	2/0		0/2				23/11
34.1~35.0		2/1	9/2	8/8	4/3	0/2	1/0				24/16
35.1~36.0		0/4	7/6	9/12	6/3	5/2	2/0	1/0			30/27
36.1~37.0	0/1	1/1	8/9	10/8	3/11	3/3	1/1	0/1	1/0		27/35
37.1~38.0		0/2	0/4	3/10	1/5	2/5	1/1				10/27
38.1~39.0			2/0	2/8	4/5	1/5	2/1	1/1		0/1	9/20
39.1~40.0				2/3	4/6	0/2	2/0	1/1			0/12
40.1~41.0				0/5	0/2	0/1					0/8
41.1~42.0			0/1		1/0	0/1					1/2
42.1~43.0				0/1		0/1					0/1
計	2/2	9/16	46/32	43/61	27/35	14/21	7/5	3/2	1/0	0/1	152/175

第2表-(2) 乳頭位胸囲と背丈の相関表 (2年 42年/47年)

背丈 (cm)	乳頭位胸囲(cm)								計
	64.1	68.1	72.1	76.1	80.1	84.1	88.1	92.1	
	68.0	72.0	76.0	80.0	84.0	88.0	92.0	96.0	
31.1~32.0	1/0	2/0	1/0						4/0
32.1~33.0		2/0	2/2	1/0					5/2
33.1~34.0	1/0	1/0	6/1	2/2	1/1				11/4
34.1~35.0	3/0	6/2	9/1	5/3	1/1	1/1		2/0	27/8
35.1~36.0	2/0	4/1	9/7	5/5	3/8	1/2	0/1		24/24
36.1~37.0		3/1	11/7	10/8	5/6	3/5	1/3	0/1	33/31
37.1~38.0		2/1	6/11	6/10	3/11	0/6	0/3		17/42
38.1~39.0		1/0	4/5	5/6	2/8	0/3	0/3		12/25
39.1~40.0			1/2	4/4	1/4	0/2		0/1	6/13
40.1~41.0			0/2	1/2	1/1	0/2			2/7
41.1~42.0			0/1			0/1			0/2
42.1~43.0				1/0					1/0
計	7/0	21/5	49/39	40/40	17/40	5/22	1/10	2/2	142/158

第2表-(3) 乳頭位胸囲と背丈の相関表 (3年 42年/47年)

背丈 (cm)	乳頭位胸囲(cm)									計
	64.1	68.1	72.1	76.1	80.1	84.1	88.1	92.1	96.1	
	68.0	72.0	76.1	80.0	84.0	88.0	92.0	96.0	100.0	
31.1~32.0			1/0	1/0						2/0
32.1~33.0		0/1		2/0						2/1
33.1~34.0	0/1	2/0	4/0	3/0	1/1	1/1				13/3
34.1~35.0		2/0	3/1	2/0	6/2	3/0				14/3
35.1~36.0		2/3	9/8	12/3	6/4	2/3	1/0		1/0	33/21
36.1~37.0		1/0	3/8	8/8	13/8	3/5	0/2			28/32
37.1~38.0			4/9	3/9	6/13	4/3	0/1			17/30
38.1~39.0			4/4	5/9	3/13	3/3	0/1		0/1	15/29
39.1~40.0		1/1	3/8	2/11	3/6	1/4	0/2	0/1		10/20
40.1~41.0			1/1	2/5	0/4	0/1				2/9
41.1~42.0				2/4	1/0	0/1		0/1		1/2
42.1~43.0					0/0	1/1		1/1		
43.1~44.0						0/1				0/1
44.1~45.0							1/0			1/0
計	0/1	6/5	31/31	42/40	39/42	17/22	2/7	0/2	1/1	138/151

まず区間設定について述べると、市販型紙の胸囲寸法区分は4社中3社までが4cm間隔となっており、B社もAサイズBサイズ別では同様の区分とみなされる。また、背丈は4社とも1cm間隔に設定されている。(第1表参照)。相関表の乳頭位胸囲の分布区分は型紙寸法表の寸法を中点として上下に2cmの巾を持たせるように設定した。すなわち、小サイズを例にとれば、70cmを中点として上下に2cmの巾をとり、68.1~72.0としたということである。なお、実際に型紙を選ぶ場合は各自の乳頭位胸囲実測値より大きめの寸法のものを使用しているが、上限と下限に2cmの許容範囲を考慮してこのような区間を設定した。背丈の区間について

第3表 型紙寸法の枠内・枠外の分布 (学年別, 年次別, 計測値による)

サイズ区分	学年別, 年次別	1 年				2 年				3 年				
		42 年		47 年		42 年		47 年		42 年		47 年		
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
枠内	特大	0	0	0	0	0	0	3	1.9	0	0	1	0.65	
	大	1	0.7	1	0.6	0	0	6	3.8	4	2.9	3	2.0	
	中	A	3	2.0	3	1.7	5	3.5	6	3.8	13	9.4	8	5.3
		B	6	3.9	3	1.7	5	3.5	5	3.2	12	8.7	3	2.0
		C	8	5.3	8	4.6	9	6.4	1	0.6	3	2.2	1	0.65
	小	11	7.2	3	1.7	1	0.7	0	0	2	1.5	0	0	
合計	29	19.1	18	10.3	20	14.1	21	13.3	34	24.7	16	10.6		
枠外	特大	3	2.0	1	0.6	3	2.1	5	3.2	1	0.7	2	1.3	
	大	3	2.0	3	1.7	5	3.5	8	5.0	9	6.5	9	6.0	
	A 中 区	A	8	5.25	4	2.3	5	3.5	10	6.3	13	9.4	7	4.6
		B	8	5.25	3	1.7	8	5.6	5	3.2	10	7.3	0	0
		C	9	5.9	6	3.4	9	6.4	3	1.9	5	3.6	0	0
	小	9	5.9	7	4.0	4	2.8	0	0	0	0	1	0.7	
	小小計	40	26.3	24	13.7	34	23.9	31	19.6	38	27.5	19	12.6	
	特大	1	0.7	1	0.6	0	0	4	2.5	1	0.7	6	4.0	
	大	3	2.0	1	0.6	0	0	8	5.0	4	2.9	10	6.6	
	B 中 区	A	3	2.0	14	8.0	7	4.9	24	15.2	13	9.4	27	17.9
B		13	8.5	29	16.5	27	19.0	30	19.0	20	14.5	37	24.5	
C		26	17.1	47	26.9	31	21.8	35	22.2	23	16.7	30	19.9	
小	26	17.1	22	12.5	16	11.3	5	3.2	4	2.9	4	2.6		
小小計	72	47.4	114	65.1	81	57.0	106	67.1	65	47.1	114	75.5		
C 区	11	7.2	18	10.3	7	4.9	0	0	0	0	1	0.65		
D 区	0	0	1	0.6	0	0	0	0	1	0.7	1	0.65		
小小計	11	7.2	19	10.9	7	4.9	0	0	1	0.7	2	1.3		
合計	123	80.9	157	89.7	122	85.9	137	86.7	104	75.4	135	89.4		
総合計	152	100.0	175	100.0	142	100.0	158	100.0	138	100.0	151	100.0		

は市販型紙がすべて 1 cm 間隔であるし、実際の型紙補正も胸囲にくらべて容易なので、型紙寸法を中点として巾を設けることをせず、表中の点線部分までを許容範囲と考えて検討することとした。

つぎに第2表の(1)から(3)に実線で枠を付し、枠内すなわち型紙の胸囲と背丈で全く補正を必要としない人数と、枠外すなわち何等かの補正を必要とする人数の分布を区分した。更にこのことを分析検討するために第3表を作成した。第3表中のA区、B区、C区、D区の記号は第2表の(1)から(3)におけるつぎのような部分を表わしたもので、該当する欄に記入された数字は、それぞれの部分に所属する人数である。

A区…乳頭位胸囲実測値は型紙寸法の許容範囲内であるが、背丈のみが小で枠外となる区。

B区…乳頭位胸囲の実測値はA区と同様許容範囲内であるが、背丈が大で枠外となる区。

C区…乳頭位胸囲の実測値が小で枠外となる区。

D区…乳頭位胸囲の実測値が大で枠外となる区である。

つぎに学年ごとに考察を進めることとする。

(1) 1年について；乳頭位胸囲では両年次ともC区すなわち、型紙の胸囲寸法が大き過ぎて枠外となっている人数が多く昭和42年値で7.2%，昭和47年値で10.3%を占めている。背丈は両年次ともB区すなわち背丈の実測値が大で枠外となる数多く昭和42年値で47.4%，昭和47年値で65.1%で約20%近い増加となっている。

つぎに胸囲も背丈も型紙の上で補正を必要としない人数についてみると昭和42年には29名で19.1%あったのが5年を経過して18名の10.3%と約9%減少している。

1年の乳頭位胸囲と背丈の相関係数 $r$ は、昭和42年値で0.435、47年値で0.407となり両年次とも相関がみとめられる。以上のことから1年生用ブラウスの型紙は5年間隔で胸囲と背丈の寸法を関れんさせて改訂して行く必要があると考察される。

(2) 2年について；乳頭位胸囲は昭和42年では1年と同じ傾向でC区の所属が約5%ありD区は0%であったが、5年を経過した昭和47年値では型紙寸法の枠外となる者は皆無となった。このことは、昭和42年から47年までの5年間で市販型紙寸法の枠内にすべて当はまるようになり型紙寸法の上での胸囲補正が余り必要でなくなったと言えよう。

背丈は両年次ともB区で枠外となる人数が多く、昭和42年値で57%、47年値で67%と約10%増加している。また、枠内の比率は5年間で余り変化がなく13%から14%程度にとどまっている。

乳頭位胸囲と背丈の相関係数を求めると、昭和42年値で $r = 0.272$ 、昭和47年値で $r = 0.167$ と弱い相関である。もしも2年でブラウス教材を取り上げるとすれば、岩手県の場合、市販型紙寸法の背丈の補正のみで使用できるという結果が得られた。

(3) 3年について；この学年では両年次調査結果共、乳頭位胸囲寸法が型紙寸法からはみでている人数は殆ど無いといってよい。背丈については1・2年生と同様の傾向で、両年次ともB区が多く昭和42年で47.1%、47年では75.5%でこの間に約30%も増加している。また、枠内比率は昭和42年値で24.7%から昭和47年値では10.6%と約14%減少している。乳頭位胸囲と背丈の相関係数は、昭和42年値で $r = 0.156$ となり、47年値では $r = 0.289$ 、両年次とも極めて低い相関しかみとめられない。

以上1年から3年までの考察を通していえることは、どの学年も背丈の補正が多く約7割から8割の者が、寸法を伸ばす補正をしなければならぬし、約1～2割の者が短かくする補正を必要とする結果である。このことは各学年における両年次間の背丈(実測値平均)の伸びが極めて大であったこと<sup>4)</sup>に起因すると考察される。またもうひとつの要因としては、前述したとおり乳頭位胸囲と背丈との相関がみとめられる点から考えて、市販型紙を作製する場合に使用した背丈の計測方法と今回我々が実施した計測方法<sup>5)</sup>との相異によるのではないと思われる。

乳頭位胸囲と背丈の相関分布表中点線部分即ち、型紙の背丈寸法の上下に2cmの許容範囲を設けた場合の総人数が各学年ごとに、年次別にどのように変化したかをみると、1年では昭和42年には、152名中106名が所属していて、その比率は69.7%を占めていたが、47年には175名中94名で53.7%と約16%減となっている。5年間で市販型紙寸法が合わない生徒が増加してい

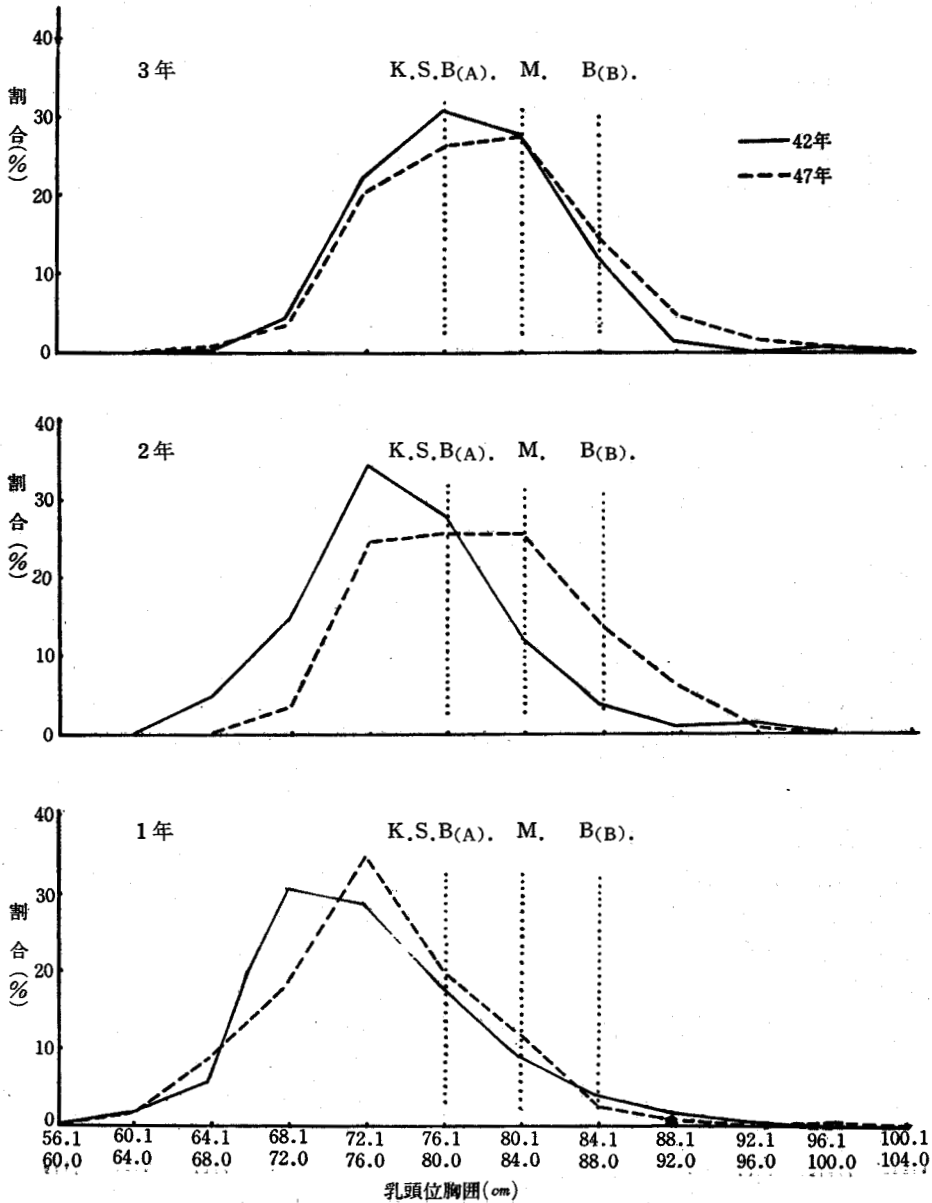
5) 計測器具は、山越製の Martin 人体計測器を使用し、計測方法は、R. Martin 氏の方法に準拠し、柳沢氏が中心となって作成した。日本規格協会：衣料 JIS 体格調査説明会テキスト(その1)1967および(その2)1967並びに体格調査専門委員会：衣服寸法設定のための身体計測実施要領1966による。



ということである。また、2年生の場合は69.7% (昭和42年値) から、71.5% (昭和47年値) で5年間の差も少なく約7割の生徒がこの範囲に含まれる。3年では73.2% (昭和42年値) から、65.6% (昭和47年値) と7.6%減という結果である。岩手の実測値からみると現在市販され、実際活用されているブラウス型紙の寸法は、2年生に最も適しており、ついで3年、1年の順に補正を必要とする数が多くなっているという結果である。

今回研究対象としたブラウス教材は現行学習指導要領では1年生教材として位置づけられているので、岩手の実測値からみると現在市販され、採用されている型紙寸法には問題があり、

第3図 胸囲の分布と型紙寸法



アンケート調査の要望と合わせて考え、対処しなければならないと思う。

つぎに実際に型紙を選定する場合、基準となるのは胸囲寸法であるから、特に乳頭位胸囲の実測値の学年別分布と市販のブラウス型紙の胸囲寸法との関係を考察するため第3図を作製した。

昭和42年の分布を実線で、47年の分布を点線で表わし、乳頭位寸法の区間設定は前掲の第2表に準じた。比率は、それぞれの時点で対象とした学年別生徒総数に対する各区間に所属する人数比で求めた。寸法は、各社の胸囲寸法表(第1表(1)参照)の平均、例えば、K・S・B(B)のカット線は78cmの所属する区間に位置づけた。B社の(B)も同様の考え方で85cmのところラング付けした。

図によって明らかなように1年教材であるブラウスの型紙であるのに実測値の分布と型紙寸法との間のずれが大きい。型紙寸法の平均が4cm低いランクに来ればよいという結果が読みとれる。しかし、両年次間で実測値の山が大きく変化しているから今後の動きを追跡する必要がある。2年、3年と学年が進むにつれて、型紙寸法とのずれが少なくなる傾向が見受けられる。また、昭和42年値と47年値の分布も1年の変化が最も大きく学年が進むにつれて小さくなっている。現在市販のブラウス型紙寸法(胸囲)はこの図からみても2年生、3年生向きにできていえる。

#### IV ま と め

以上の結果から岩手県の3中学校女子生徒の身体計測値(今回は乳頭位胸囲と背丈)と市販・活用されている型紙寸法との関係についてつぎのようなことが言える。

1. 昭和42年値と47年値の実線枠内(第2表(1)~(3))と枠外の人数間の差について $\chi^2$ 検定を行なった結果1年では $\chi^2 = 5.11$ 、2年では $\chi^2 = 0.04$ 、3年では $\chi^2 = 9.94$ となり、5年間で明らかに有意差のみとめられたのは3年(1%水準)と1年(2.5%水準)で、2年では差はみとめられない。また許容はんいを含めた数字で同様の検定を行なった結果は1年においてのみ5%水準で差がみとめられ、他の学年ではみとめられなかった。このことは1年教材であるブラウスの型紙であるから岩手の実態に合った型紙にして与える必要があると思う。

2. 岩手の実測値をもとに考察すれば、現在市販され、実際教育現場で活用されているブラウス型紙は実測値との間にかなりの差がみとめられ、アンケートの要望にも数校から寄せられている「地域に則した型紙の製作」は、実施面では生産コストの問題等で困難が予想されるが、指導の能率を上げ教育の効果を高めるためには必要であると思う。

3. 型紙教育が学校教育に取り入れられてから約30年を経過しているが、今回のアンケートの反応からして現場の取り組みが必ずしも積極的な方向であるとは考えられない。その一つの要因に適切な市販型紙の入手が困難であるという点が考えられる。もうひとつには型紙を使った製作学習過程を構造化して行く必要があると思う。今後こうした点について研究を重ねて行くことにより、かなりの進展が期待できるのではなかろうか。

#### 参 考 文 献